

# 水土里ネット氷見

## 第一回理事会の開催

平成二十一年度第一回理事会が、去る六月十二日(金)午後一時三十分から、当改良区二階会議室で開催されました。布子誠剛理事長の「梅雨入りに伴い今後は、十二町潟排水機場の対応や五位ダムからのかんがい用水については、天気予報に基づききめ細かな運転操作や五位ダムとの綿密な連携など、早い段階からの対策に万全を期すよう指示した。」との挨拶の後、二件の案件について熱心な審議が行われ、いずれも原案のとおり可決されました。その概要は別枠のとおりです。

今回の理事会は、布子理事長三期目の最初の会議であり、職員の今夏ボーナスは、民間の情勢から引き下げる必要があること。また、滞納対策は一定の成果が出ているが、引き続き分納誓約や口座振替制度の推奨など、個別具体的な対応が必要であ



熱心な審議を賜りました

### 第1回理事会議題の概要

1. 職員等の給与及び旅費に関する規程の一部改正について  
6月ボーナスは、氷見市職員の取扱の例により、0.2月分を凍結し現行2.15月分を1.95月分とするため現行規程の一部を改正しました。なお、年間分の取扱は、8月の人事院勧告を見て今回の凍結分を含め12月支給分で必要な措置を講じることにしました。
2. 滞納対策検討委員会規程の一部改正について  
役員の一斉改選により現在欠員となっている滞納対策検討委員会に息を吹きかけ、その職務として滞納対策の進行管理も担えるように現行規程の一部を改正しました。また、新たに選任された滞納対策委員会委員は、次の方々です。  
委員長 新屋敷 義成(再) 委員長職務代理 大石 勝巳(再)  
委員 木和田 勝(再) 國本 嘉隆(再) 尾矢 公道(新) 玄 勉(新)

ること等の積極的な発言がありました。今後とも、滞納者との数多くの接触の中から理解と協力を求めることが大切でありますので、総代の方々のご支援をお願い申し上げます。



水土里(みどり)ネットは、土地改良区の愛称です。全国公募の中から平成十四年十月に選定されました。「水」は農業用水や地域用水等を、「土」は土地や農地・土壌を、「里」は農村空間や農家・非農家の生活空間の意味です。また「水土里」は、豊かな自然環境から美味しい水やきれいな空気など清廉なイメージを表現するものです。

## 組合員の皆様へのお願い

組合員の皆様には、日頃から農地や農業用施設の災害を防止し、または被害を軽減するために迅速かつ適切な対応をお願いしているところです。今年も、梅雨シーズンに入り、集中豪雨等により河川、ため池及び用排水路が増水することが多くなると予想されますので、今一度、各施設の障害物を取除く等の点検と必要な措置をお願いいたします。特に、増水や溢流時に水管理等で止むを得ず当該施設に近づくときは、複数人で行動すると伴に作業は充分留意して行って下さい。また、地すべりやため池等の災害が予想される場合や発生した場合は、速やかに当該状況を把握し、土地改良区(☎九一・〇〇八三)など関係機関に報告して下さい。

昨年(七)八月の集中豪雨では出水が予想以上に早いことが確認されましたので、十二町潟排水機場では、インターネットによる降雨予測や万尾川及び仏生寺川副水路の水位調整等、事前の対応を徹底することにしていきます。



**氷見市土地改良協会通常総会の開催**

去る六月三日（水）午後二時三十分から、平成二十一年度氷見市土地改良協会通常総会が、会員十六名の出席の下、氷見市土地改良区二階会議室で開催されました。

会議に先立ち、布子誠剛氷見市土地改良協会長の「総会出席への労と感謝の言葉のあと、五位ダムでの農業用水を利用した小水力発電事業の可能性を探りたいこと。五位ダムからの用水も四月二十六日の水使用開始以来順調に推移しており、引き続き節度ある水使用の協力をお願いしたい。」との開会の挨拶に引き続き、川田優氷見市産業部長から「総会開催への祝意のあと、認定農業者や集落営農組織の協力を得ながら地域振興作物の生産拡大と産地化に努める。農業に活力を与え地産地産や食育を通して市の発展に努力していく。」旨のご祝辞を頂きました。



通常総会で挨拶する布子協会長

提案された「平成二十一年度事業報告、収支決算及び特別会計収支決算について」等の三議案は、何れも原案のとおり承認または可決され、野畑圭造副会長から「全案件が原案通り可決されたことへの感謝と高岡管内で関係機関との意見交換の場があれば積極的に会員の意見を推進

したい。」との閉会の挨拶があり、午後三時三十分閉会となりました。

これに先立ち、去る四月二十八日（火）には、平成二十一年度先進事例視察研修が開催され会員二十三名が参加しました。

研修地の南砺市（旧福光町）白中ダムでは、農業用水を利用した小水力発電設備を視察し、事業概要、採算性及び運転管理の方法等について説明を受けました。会員からは、発電可能流量や売電方法、組合員への還元度合い等、様々な質問が飛び交いました。

現在、富山県では農業用水を利用した小水力発電の事業化を積極的に推進しており、今回の研修は、関係者に五位ダムへの導入の可能性を検討して戴く良い機会になりました。

氷見市土地改良協会は、土地改良事業の推進と構成団体の事業運営の充実強化を図ることを目的に昭和四十一年六月に発足し、氷見市、市内の土地改良区及び事業実施工区で組織されています。本年度も、農業農村整備事業の積極的な推進と構成団体の体質強化を図るため、新規要望地区の採択、継続地区の事業促進及び単独事業費予算枠の拡大等の要望活動や構成団体への細部にわたる指導支援等を実施する予定です。



熱心に説明を聞く参加者たち

**氷見市土地改良協会収支決算及び収支予算**

**平成21年度収支予算**

● 一般会計 (単位：千円)

本年度	前年度	比較増減	備考
982	1,293	311	

◆ 特別会計 (単位：千円)

本年度	前年度	比較増減	備考
2,602	3,446	844	

**平成20年度収支決算**

● 一般会計 (単位：円)

予算額	収入決算額	支出決算額	繰越額
1,293,000	1,296,935	1,154,395	142,540

◆ 特別会計 (単位：円)

予算額	収入決算額	支出決算額	繰越額
3,446,000	3,451,688	850,000	2,601,688



### 自然学習会の開催

去る六月二十三日(火)午後一時から、農業用水水源地域保全対策事業の一環としての自然学習会が、宮田小学校の四年生児童六十名を対象に実施されました。

この自然学習会は、雨を涵養し豊かな農業用水に育むだけでなく、二酸化炭素の吸収効果や生物保全機能といった色々な働きを併せ持つ水源林に理解を深め、その保全が如何に大切であるかを次世代に知ってもらおうという趣旨で昨年度から実施しています。

当日は、前日の雨の影響が懸念されましたが天候にも恵まれ、五位ダムへ初めて訪れた児童が多い中、松本透ダム管理事務所長代理からの五位ダムの目的や構造、管理システム、氷見市への導水経路等の説明に耳を傾けました。五位ダムの濁りの少ないきれいな水が、ダムを囲んでいる水源林の涵養機能によるものとの説明により、



五位ダムに来ました

改めて、森林整備の重要性を認識しようです。その後、大浦調整池に移動し、流入バルブの現地操作により、口径二百五十ミリの管から勢いよく水が吐

き出されると、児童たちから大きな歓声が上がりました。

最後に宮田小学校近くの島尾一号注水工では、注水口から各水路へ配水される様子など、調整池に一時貯留

された用水が、どのように使用されているのかを学習しました。児童たちから「水が遠くから運ばれてきていることを初めて知った。」「きれいな水を作る森林は偉いと思った。」等の感想があり、水源林と農業用水の密接な関わりについて理解を深める実りある学習会となりました。



水の貯留を学習しました

### 水分神社例祭

去る六月十日(水)午後二時から、桑の院ため池水分(みくまり)神社において、水まつり神事が執り行われました。この神事は、桑の院ため池及び上庄川流域の安全と、清らかな水による豊作を祈願するものです。

本年も、受益地内の集落代表者など十七名が参加し、布子理事長の「今日、上庄川流域に住む我々が、桑の院ため池等から大きな恩恵を受けることができるのは先人達の努力の

お陰であり、改めて感謝するとともに引き続き守り抜いて行く」旨の挨拶の後、神事が行われ、鯉を放流し、参加者一同豊作を祈願しました。

### 新事業のご紹介

農地有効利用支援補完整備事業が、国の「経済危機対策」の一環として平成二十一年度から二十三年度まで実施されます。

この事業は、地域が目指す営農体系の定着に必要となる農地、農業水利施設等の簡易な整備や施設管理の省力化の為の取組等を支援することで、食料自給率の向上と生産調整のさらなる拡大を図ることを目的としています。

条件は、食料自給率の向上や生産調整の取り組みを通じて地域における営農体系が変更されるために必要な補完整備の内容が明らかになっていることと、事業費が二百万円未満で単年度で施工できるものとなっています。また、氷見市は半島振興法の指定地域に属するため、通常五〇%の国庫補助率のところ五十五%の補助が適用されますが、補助残額は受益者負担となります。

当土地改良区では、この事業を有効に活用するため、各地区からの要望をお聞きしています。本年度の採択は終了しましたが、事業についての説明や、来年度、再来年度の採択についてのご相談をご希望の地区は、業務課(☎九一・〇〇八三)までご連絡下さい。



計画的な水使用にご協力下さい

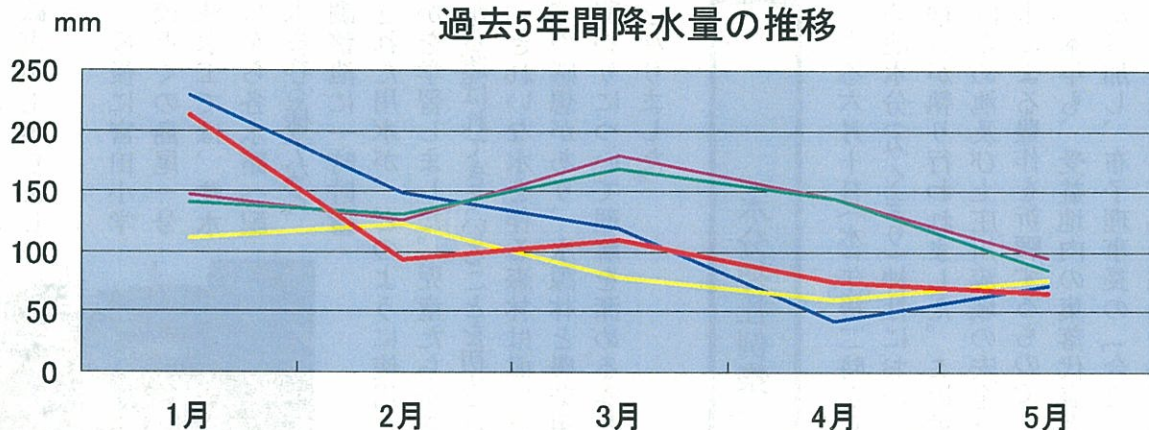
昨年は、年明けから田植え期までの降水量が過去五年間で最も少なく、六月末時点での五位ダムからの導水量が、過去最高であった一九年度を約三〇パーセント上回り、水不足が懸念されてきました。しかし、夏季の断続的に降り続いた雨の影響から八月の使用水量が大幅に抑えられ、利用期間中の使用水量はほぼ平年並みの三、八〇九千<sup>m</sup>となりました。

さて、今年の年明けから五月末までの降水量は下グラフのとおり昨年に次ぐ少なさとなり、降水量は年々減少している印象を受けます。また、六月十日には昨年より九日早い平年並みの梅雨入りを迎えました。真夏日を含む晴天が続いた中、一二日には日雨量七一・〇ミリの強い雨を観測しました。引き続き本年も突発的な集中豪雨対策に万全を期して参ります。

今後とも、天気予報に基づく日々の送水量設定や各調整池のバルブ開度の調節等、細部にわたり適切に対応し、適正配水に努めてまいりますので、組合員の皆様方には、計画的な水使用に引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。



過去5年間降水量の推移



区分	17年	18年	19年	20年	21年
1～5月 総降水量	610.5mm	690.5mm	668.5mm	449.5mm	555.0mm

★施設紹介★  
φ八〇〇固定羽根斜流チューブラポンプ

十二町瀉排水機場に設置されているこのポンプは通称一号ポンプと呼ばれ、毎秒一・四<sup>m</sup>（ドラム缶約七本分）の排水能力を備えており、平常時はコンピュータ管理の自動運転で集水槽の水位を一定範囲に保っています。万尾川等の水を取水し、吸込口手前の除塵機で河川ゴミを取り除いた後、湊川へ強制排水しているため、からくり時計や噴水も気持ち良く見ることが出来ます。



事務局からのお知らせです

税務対策上、土地改良区へ納入する各種賦課金は必要経費として計上することができます。各種賦課金の領収書は確定申告の際に必要となりますので大切に保管して下さい。

また、各種賦課金の納入には口座振替が便利です。口座振替をご希望の方は氷見市土地改良区またはお近くの農協窓口へお申し出ください。

